

# 都市計画概要 2013

## 第2編 名古屋の都市計画の現況

### 第11章 歴史まちづくり

- 11-1 名古屋市歴史まちづくり戦略
- 11-2 名古屋市歴史的風致維持向上計画
- 11-3 歴史的町並み保存事業
- 11-4 文化のみちの推進
- 11-5 揚輝荘の修復整備
- 11-6 歴史的建造物の保存活用の推進

### 11-1 名古屋市歴史まちづくり戦略

身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むため、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として「名古屋市歴史まちづくり戦略」を平成 23 年 3 月に策定した。

#### 《戦略の目標》

地域の歴史的資源を活かした、魅力的な都市環境の維持・形成に取り組むために戦略の目標を掲げている。

～人・まち・歴史をつなぎ、絵となり物語となり、時とともに熟成する～  
**「語りたくなるまち名古屋」の実現**  
 ～身近に歴史が感じられ、もっとまちが好きになる～

図 2-11-1 歴史まちづくり戦略の目標

#### 《戦略の枠組み》

戦略の目標である「語りたくなるまち名古屋」の実現に向けて、戦略Ⅰ～Ⅳの 4 つの戦略を定めた。

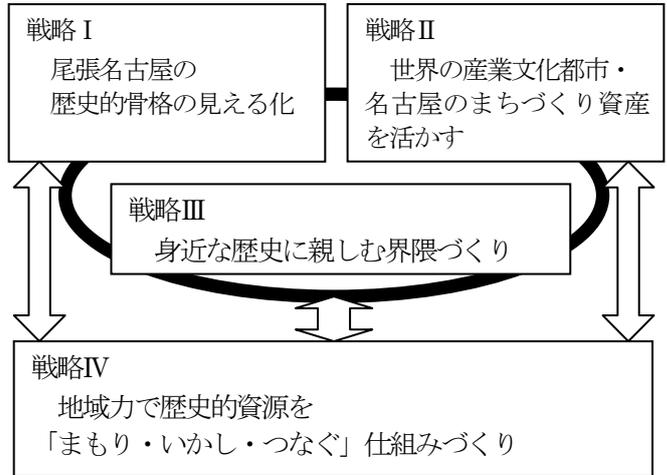


図 2-11-2 歴史まちづくり戦略の枠組み

#### 《目標年次》

開府 400 年(2010 年)の次の 100 年(開府 500 年)を見据えつつ、おおむね 20 年後に向けた取り組みとする。



図 2-11-3 地域展開のイメージ

## 11-2 名古屋市歴史的風致維持向上計画

「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」に基づき、「名古屋市歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成 26 年 2 月 14 日に主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）の認定を受けた。

### 《歴史的風致とは》

歴史的風致とは、地域における固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境のことである。



筒井町天王祭



熱田祭（献灯まきわら）

写真 2-11-4 歴史的風致の事例

### 《計画期間》

平成 26 年度～平成 35 年度

### 《維持向上すべき歴史的風致》

- ① 名古屋城と名古屋城下町を舞台に展開した祭礼に見られる歴史的風致
- ② 熱田神宮等に見られる歴史的風致
- ③ 尾張氏ゆかりの地、志段味に見られる歴史的風致
- ④ 堀川・四間道界隈に見られる歴史的風致
- ⑤ 街道や城下町の周辺地域等に見られる歴史的風致
- ⑥ 大都市名古屋の発展過程に見られる歴史的風致

### 《重点区域》

- ① 名古屋城周辺地区（約 1,040ha）
- ② 熱田地区（約 190ha）
- ③ 志段味地区（約 290ha）

### 《歴史的風致の維持向上を図る主な事業》

- ① 名古屋城本丸御殿の復元
- ② 文化のみちの推進
- ③ 本町城下町歴史案内板等整備事業
- ④ 尾張名所図会看板の整備
- ⑤ 「歴史の里」整備事業
- ⑥ 歴史的町並み保存事業
- ⑦ 歴史的建造物の登録・認定

## 11-3 歴史的町並み保存事業

市内に残された貴重な歴史的な町並みを保存するため、名古屋市町並み保存要綱により、「有松」、「白壁・主税・檀木」、「四間道」、「中小田井」の 4 地区を「町並み保存地区」に指定している。

保存地区内において、町並みの特性を維持している古い建造物（建物・門・塀など）を「伝統的建造物」として指定し、歴史的な町並みを構成する重要な要素として重点的に保存・修理を図っている。

表 2-11-5 主な補助内容

補助対象	補助率	限度額
伝統的建造物の修理	7/10 以内	500 万円
伝統的建造物以外の建造物等	6/10 以内	300 万円

### （1）有松地区（緑区） 約 19.5 ヘクタール

江戸時代以来「有松絞」の製造・販売によって発展した東海道沿いのまちである有松地区は、塗籠造や虫籠窓、卯建などの特徴を持った商家が現在も街道沿いに軒を連ね、近世の町並みを今に伝えている。



(2) 白壁・主税・榎木地区（東区） 約 14.3 ヘクタール

白壁・主税・榎木地区は江戸時代以来の武家屋敷跡の地割りを良く残しており、門・塀と緑樹からなる屋敷景観と戦前の優れた近代洋風建築が建ち並ぶ美しい町並みを形成している。



(3) 四間道地区（西区） 約 2.8 ヘクタール

四間道地区は慶長 15 年（1610）に始まった清須越しにもなつてつくられた商人町で、堀川の水運を利用して隆盛を誇った清須越し商人の栄華の跡である土蔵群と町家が城下町の面影を残している。



(4) 中小田井地区（西区） 約 2.8 ヘクタール

岩倉やその周辺から枇杷島の青果市場へ野菜類を運ぶ道として賑わった岩倉街道沿いに形成されたまちである中小田井地区は現在も町家や土蔵が多く残っており、街道の歴史を身近に感じることができる。



11-4 文化のみちの推進

名古屋の近代化の歩みを伝えるため、名古屋城から徳川園までを「文化のみち」とし、イベントの実施や、文化のみち二葉館などの貴重な近代建築物の公開を行っている。

(1) 文化のみち二葉館（名古屋市旧川上貞奴邸）

「日本の女優第 1 号」といわれた川上貞奴と「電力王」といわれた福沢桃介が居住していた大正 9 年頃に建てられた和洋折衷の建物を、創建当時の姿で移築復元し、平成 17 年 2 月に文化のみちの拠点施設として開館した。館内では、文化のみちのさまざまな情報を発信するとともに、川上貞奴に関する資料や郷土ゆかりの文学資料を展示している。

平成 17 年 2 月登録文化財（一部）に、平成 21 年 1 月には景観重要建造物に指定されている。



(2) 文化のみち榎木館

陶磁器商として活躍していた井元為三郎が大正末期から昭和初期にかけて建てた邸宅を平成 19 年に市が取得し、修理工事を終えて平成 21 年 7 月に新に開館した。約 600 坪の武家屋敷の敷地割に、庭を囲むように大正浪漫あふれる洋館、和館、茶室や裏庭に東西 2 棟の蔵が残されている。洋館には、当時の流行を先取りしたスタンドグラスが贅沢に使われている。

平成 8 年 4 月に市指定有形文化財、平成 20 年 3 月には景観重要建造物に指定されている。



### (3) 旧豊田佐助邸

豊田佐助は、発明王として有名な豊田佐吉の弟で、佐吉を支えた実業家である。旧豊田佐助邸は、白いタイル張りの洋館と和館で構成されている。所有者（アイシン精機株式会社）から市が無償で借用し、建物公開などにより活用している。



### (4) 旧春田鉄次郎邸

春田鉄次郎は陶磁器商として成功した人物で、大正13年に建てられた旧春田鉄次郎邸は、近代日本を代表する建築家の一人である武田五一の設計であるといわれ、洋館と奥にある和館で構成されている。公益財団法人名古屋まちづくり公社が建物を借用した上で、レストラン等に貸し出すとともに、建物公開などにより活用している。

平成20年3月には景観重要建造物に指定されている。

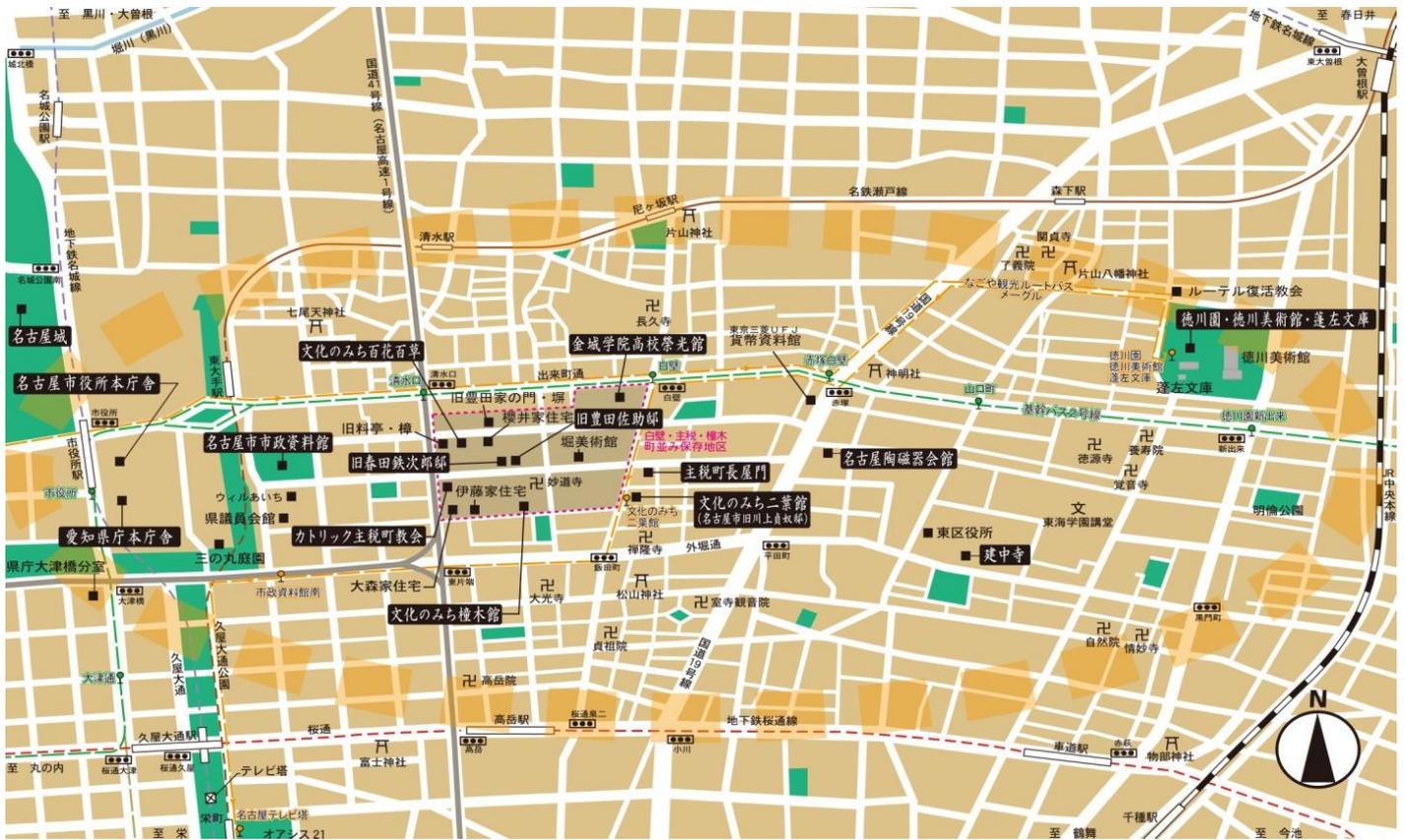


図2-11-6 文化のみちエリア図

### 11-5 揚輝荘の修復整備

揚輝荘は、大正から昭和初期にかけて(株)松坂屋の初代社長伊藤次郎左衛門祐民によって構築された別邸で、完成時(昭和 14 年頃)には、約一万坪の敷地の中に三十数棟の各種建造物が建ち並び、庭園とともに、覚王山の高台に威容を誇っていた。かつては、各界の要人や文化人が往来する迎賓館、社交場として華やぎ、アジアの留学生が寄宿して国際的なコミュニティを形成した場所でもあった。

戦時の空襲による被害や風雨による老朽化のほか、開発等の影響から揚輝荘の敷地・建造物の大半が失われたものの、主要な部分は残されており、平成 19 年に本市に寄附された。平成 20 年には 5 棟の建造物(聴松閣、揚輝荘座敷、伴華楼、三賞亭、白雲橋)が市指定有形文化財に指定されている。修復整備を行った聴松閣は、平成 25 年 8 月に一般公開を開始した。また、北園では暫定公開を行っている。

市民共有の貴重な歴史・文化資産である揚輝荘を城山・覚王山地区のまちづくりの交流拠点施設とすべく、今後も、老朽化の進む建造物及び庭園の段階的な修復整備を検討・実施し、順次一般公開を行う予定である。



写真 2-11-8 聴松閣

### 11-6 歴史的建造物の保存活用の推進

身近な歴史的建造物の保存活用を図るため、平成 23 年に名古屋市都市景観条例を改正し、所有者等の同意を得て築 50 年以上の建造物を「登録地域建造物資産」として登録又は「認定地域建造物資産」として認定し、建造物の保存や活用についての相談に応じている。さらに、「認定地域建造物資産」には建物の保存活用のための外観の保存工事等に対して助成(工事費の 2 分の 1 以内、100 万円を限度)を行っている。「登録地域建造物資産」と「認定地域建造物資産」の一覧は、市ウェブサイト「身近な歴史的建造物の「登録」「認定」制度のあらまし」内の「登録地域建造物資産」「認定地域建造物資産」に掲載

また、景観整備機構である公益財団法人名古屋まちづくり公社と連携し、「なごや歴まちびと」を養成し、相談者へ派遣を行う技術的支援制度を推進している。



図 2-11-7 配置図

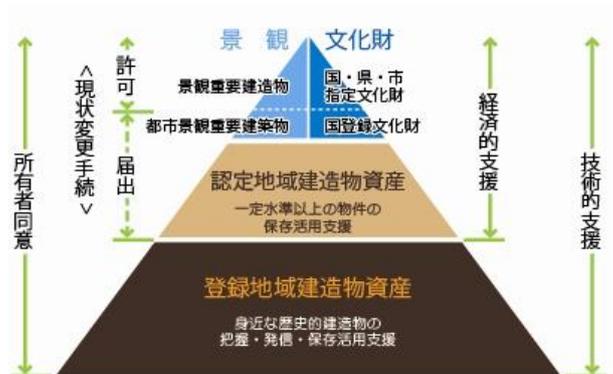


図 2-11-9 歴史的建造物の制度イメージ